

2011年度

科目名	文化財情報論			
担当教員	坪井 恒彦			
配当	文財2		コード	14033
開期	後期	講時	月曜日4限	単位数 2
授業テーマ	新聞メディアなどを通して文化遺産のあり方を情報としてどう捕らえ、発信すべきか。			
目的と概要	「文化財情報学」には、文化財自体の情報をどう処理活用すべきかという課題と、文化財やその周辺から引き出される様々な情報をいかに取り扱うべきかという問題が混在しています。本科目では、主に後者の問題へのアプローチとして新聞紙面に紹介された文化遺産にまつわる記事などを素材に、「文化財情報」の読み解き方からその整理の仕方、さらに発信側の問題などについて、特に「景観」という視点から学生諸君とともに考えます。			
成績評価法	平常点(30%)とレポート(70%)の内容について評価します。			
テキスト	随時、関連のプリントを配布します。			
参考書	小林達雄編著『縄文ランドスケープ』(アム・プロモーション刊)。			
履修に当たっ ての注意・助言 /準備学習	教壇から学生諸君への一方通行ではなく、諸君からの意見・異論・提案・質問など、積極的な発言を求めます。			
講義計画				
1. 「文化財情報」とは何か 2. 新聞紙面に見る文化財情報 3. 文化遺産としての文化的景観 4. 景観論争と新聞報道 5. 古代中国の苑と日本の遺跡景観 6. 「縄文ランドスケープ」論争 7. 長江流域と弥生環濠集落の景観 8. 三輪山祭祀と邪馬台国論争 9. 巨大古墳群周辺の風景 10. 古代宮都の景観の伝え方 11. 神仙思想・風水思想の風景の描き方 12. 情報としての日本人の風景観 13. 文化遺産を活用するための情報とは 14. 文化財情報の組み立てと発信について 15. 総括				